

指定管理者の期末モニタリング

施設名	宮代町立コミュニティセンター進修館及びスキップ広場	年度	令和6年度
指定管理者	NPO法人 MCAサポートセンター	担当課	町民生活課
指定期間	令和3年4月1日～令和7年3月31日	期別	第3期
施設の目的	進修館は、市民活動や地域活動の拠点として、文化・芸術、コミュニティ活動を通じた町民の交流を深め、地域コミュニティの推進を図ることを目的とする。 また、スキップ広場は地域住民の憩いと活動の場を提供することによって、宮代らしい賑わいと魅力を創出し、もって地域の活性化を図ることを目的とする。		
業務の内容	(1)施設の運営に関すること。 (2)施設、設備及び物品の維持管理に関すること。 (3)施設の利用許可、変更及び利用の取消し、制限等に関すること。 (4)施設の利用料金の収受、免除及び返還等に関すること。 (5)市民活動の支援に関すること。 (6)施設の設置目的にあった自主事業の実施に関すること。 (7)その他施設の目的を達成するために必要なこと。		

総合的な評価

【総合評価】 A優良 0 B適正 13 C改善 1

当該施設の目的に沿った事業計画書を作成し、計画に基づき概ね適正に管理運営されている。
事業計画書に基づき、日本工業大学や市民活動団体と協力することで様々な事業を実施し、市民活動の活性化を図るとともに新たな利用者の発掘にもつなげている。また、事業計画を再考する必要が生じた場合については、遅れることなく町へ報告、相談するなど、連絡調整も適切に対応している。
第5次宮代町総合計画前期実行計画の進修館オープンカレッジについては、町との共催事業のため、事前調整会議により役割分担を明確にして実施することで、適切に事業運営ができています。
大学連携では、日本工業大学の複数の学部、教授、研究室と連携事業を展開し、相互にメリットを共有することで今後の連携関係を創出している。

【評価事項】

自主事業では、進修館だよりをメインツールとして、地区・自治会への訪問やインタビューなどのアウトリーチ事業を実施し、地域コミュニティの活性化を図る取り組みを実施している。(和戸宿集会所サロン事業の継続)
進修館の建物としての価値や長寿命化に向けた調査などを大学連携により実施している。(2階ロビーの利用状況調査及び家具の現状調査、コンクリート建築の劣化等の調査)

【改善事項】

事業計画書に基づく人員確保及び配置が困難な状況になっている。

1. 施設の管理運営・事業	評価	B 適正
指定管理3期目の集大成として地域住民の主体的な活動を支える場としての進修館の役割を改めて見直し、コロナ禍を経て再構築期にある地域コミュニティとの接続を意識した事業を展開している。 コロナ禍が明け、令和6年度より進修館の利用制限が無くなったが、一部の団体、利用者が離れ施設利用料が減収している。		
2. 利用者の公平確保	評価	B 適正
施設の貸出及び利用料金の徴収、免除申請等は条例及び施行規則に基づき、公平かつ適正に行われている。		
3. 職員の配置、研修等	評価	C 改善
事業計画書に基づく人員確保及び配置が困難な状況になっている。		
4. 施設の維持管理業務(清掃、植栽管理など)及び保守点検	評価	B 適正
清掃及び設備保守点検を事業計画書に基づき適切に実施し、機能・安全面を確認する等、施設の維持管理業務を適正に行っている。また、利用者ニーズに迅速に対応している。		

5. 施設の修繕	評価	B 適正
町と協議の上、利用者ニーズを踏まえた施設修繕や備品購入などを実施している。		
6. 備品管理	評価	B 適正
備品管理台帳において適切な確認を行い、備品の増減等、適切に管理している。 また、象設計集団デザインした家具・調度品については修繕履歴を残すことでアーカイブ資料化している。		
7. 安全・危機管理	評価	B 適正
緊急対策マニュアルに基づき、管理責任者を中心に災害発生時の避難訓練などを行い、安全の確保のための避難経路の確認や危機管理に対するスタッフ研修を実施している。		
8. 個人情報の管理	評価	B 適正
町個人情報保護法施行条例及び施行細則に準じたマニュアルを整備するとともに、スタッフ会議及び研修を実施し、個人情報の管理を徹底している。		
9. 利用者ニーズの把握・反映	評価	B 適正
令和5年度に引き続き、進修館だよりの配布をきっかけにアウトリーチとして自治会や町内外の事業者への訪問活動を実施し、進修館に対するニーズや感想などを聴取している。(町内の地区・自治会51、施設・事業者61、町外協力者26)		
10. 自主事業の実施	評価	B 適正
事業計画書に基づく自主事業について、新たにコミュニティ事業部を創設し、地域コミュニティの活性化のため、進修館だよりの配布、配架やアウトリーチ(屋外活動)事業を展開している。 「進修館だより」については、宮代町内にスポットをあてた記事や進修館と縁のある人物・建物等の記事を取り入れるといった工夫により、幅広い世代からの支持を集めている。 「進修館だより」の配布時には、広報活動と情報交換のために地区・自治会長宅を訪問し、課題として聞こえてきた声を特集として掲載することで、地区・自治会長から一定の評価を受けている。 また、令和4年度から交流を始めた沖縄県今帰仁村との事業として、「なきじんまつり」を開催し、今帰仁村で活動する芸術集団の公演や、特産品の物販を通じて交流を図っている。 集会所におけるサロン開催事業については、令和5年度に引き続き和戸町内会にて開催し、より定着した参加者を中心に、今後の規模拡大の気配も見受けられる。事業の形態としては、進修館が用意したプログラムをそのまま提供するのではなく、町内会から出された地域ニーズに基づいて企画し、広報は町内会が実施する伴走型としている。 第5次宮代町総合計画前期実行計画事業「進修館オープンカレッジ」の第5弾「進修館をアートで彩る」では、令和5年度末に開催されたオープニングセッションを受け、企画のプレゼンテーションを実施し、その中から、「窓を開け 風をよびこむ」、「ひかるふしぎないきものをさがそう@進修館」が開催されている。 共催事業としては、進修館を活用した提案型の事業を公募し、いくつかの主体とともに様々な事業を展開している。(キャンドルナイト、へそたんけん2025、カンパニー・ヒュッゲ、バリアフリー演劇) 大学連携では、2階ロビーの利用状況調査及び家具の現状調査、コンクリート躯体調査、進修館で撮影された写真を使用し等身大パネルを作成・再現展示をする「進修館をアルバムにする」等の様々な連携事業を展開し、日本工業大学とのネットワークを構築している。アーカイブ管理システムの共同開発については、指定管理撤退に伴い、2月にアーカイブ管理システムの開発を中止している。		
11. 経費節減	評価	B 適正
清掃等は再委託せず、清掃スタッフにより業務を実施することでコストの削減に努めている。 また、施設設備の応急修繕について、専任サポートスタッフ等が実施することにより、コスト軽減を図っている。		
12. 環境への配慮	評価	B 適正
館内の照明機器のLED化や環境に配慮した物品購入を実施している。		
13. 利用者への情報提供	評価	B 適正
X(旧twitter)やFacebookなどSNSを活用した情報発信、「進修館だより」や「進修館百貨店」といった紙媒体での情報発信により、施設のPRや利用促進を図っている。		
14. 会計管理	評価	B 適正
経理担当スタッフを配置し、指定管理業務経費及びその他の経費、団体運営経費を区分して適正に管理している。		